

東大阪橋梁維持管理研究会

大阪市内で成果発表会



坂野会長

を重ねてきた。今回は、その成果報告と特許出願状況の説明を目的として開催された。

東大阪橋梁維持管理研究会(坂野昌弘会長・関西大学教授)は2月29日、成果発表会を開いた。参加は鉄道橋や道路橋管理者なども含め約50人。

同研究会は橋梁維持管理技術者を共同で研究・開発するため、京阪神エリ

アの中小企業23社と関西大・近畿大、大阪府・東大阪市などによって平成26年1月に設立。WGに分かれて研究と実証実験

当日はまず坂野氏により設立からの取組みと成果概要の解説があり、次に本四高速の森山彰氏が「TRSを用いた鋼床版の下面補修工法」について発表。今月中旬実施予定の実橋試験施工の詳細について説明された。

続いてシーエス・インスペクターの小出泰弘氏と友定建機の井上賢二氏が「橋梁用ボータブル掃除機」についての報告と、吊橋の主塔やPC桁の支

承部などでの使用事例、3月中旬に自治体の橋梁で使用予定などを紹介。次に巴製作所の西山圭介氏が「下面補強工法のための治工具」と「横桁や対傾構との交差部の疲労対策」について実物大

模型の施工試験や実橋梁での施工状況を含め詳細な報告をした。最後に特許出願状況を解説。今後の展開について大西正曹関西大名誉教授が説明し、意見交換と交流会を行った。